



当社のFacebookを始めました。

ディザルタ、エフィーダの 新規混合剤の販売を開始

水稲用殺菌剤ディザルタは、いもち病をはじめとした幅広い病害に高い効果と長期残効性を示し、水稲への安全性の高さが評価されています。本年1月にディザルタを含む新規混合剤「ブーンアレス箱粒剤」を上市しました。2成分で主要病害虫を防除でき、幅広い処理時期に対応できます。

水稲用除草剤エフィーダは、幅広い雑草への高い効果や水稲への安全性の高さが評価されています。昨年は、エフィーダを起爆剤として、水稲一発処理除草剤シェアNo.1を奪還しました。こちらも本年1月に、エフィーダ含有の新規混合剤「シンズイZ」の4剤型(1キロ粒剤、フロアブル、豆つぶ250、ジャンボ)を上市し、ラインナップの拡充により更なる成長を目指していきます。海外では、韓国での販売に加え、2021年3月に欧州での原体登録の申請を行いました。世界的な戦略剤として成長を図ります。



冊子「お米をまもるはなし」の発行

当社は、ステークホルダーの皆さまはもちろんのこと、一般消費者の皆さまにも農業に対する正しい知識や農業への理解を深めていただくための啓発活動を行っています。その一環として、冊子「お米をまもるはなし」を作成しました。この冊子は、農業について学び始める小学校5年生を対象に、お米作りの過程を通じて農業の役割について漫画を交えてわかりやすく解説しています。大人が読んでもお米作りや農業について楽しく学べる内容となっています。

すでに当社の事業所近隣の小学校への配布を行っており、今後は全国の小学校への配布へと広げていく予定です。また、静岡県内の研究所や工場近隣の学校を訪問して、この冊子を副教材として用いた農業や農業についての出前授業も行っています。

より多くの方にご覧いただけるように、「お米をまもるはなし」の電子ブックをコーポレートサイトで公開しています。ぜひご覧ください。



豆つぶ剤(有効成分なし)での実演の様子

サステナビリティ経営 推進への体制強化

当社は、「サステナビリティ経営の推進」を経営方針に掲げ、社会や地球環境における課題解決への貢献とともに企業としても持続的に成長することを目指すサステナビリティ経営の考え方を経営戦略に組み入れています。

ESG課題への対応を全社的に推進するため、本年5月にサステナビリティ推進室をサステナビリティ推進部へと組織強化しました。これまでサステナビリティ推進室として行ってきたサステナビリティ経営推進に加え、化学品を扱う企業が、化学製品の全てのライフサイクルにおいて、自主的に環境の保全と安全・健康の確保に努め、改善を図っていくレスポンシブル・ケアに本格的に取り組むべく、レスポンシブル・ケア推進課を設置しました。より強力にサステナビリティ経営を推進していきます。

株式情報/会社情報 (2022年4月30日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	133,184,612株 (自己株式 13,024,826株を含む)
株主数	12,453名

■株式分布状況



■会社概要

会社名: クミアイ化学工業株式会社
 設立年月日: 1949年6月20日
 資本金: 4,534百万円
 事業内容: 殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
 有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売
 従業員数: 1,818名(連結) (2021年10月31日)
 本社所在地: 〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	22.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,343	10.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	8,992	7.48
農林中央金庫	6,117	5.09
CGML PB CLIENT ACCOUNT / COLLATERAL	4,664	3.88
共栄火災海上保険株式会社	4,480	3.72
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.30
日本曹達株式会社	1,928	1.60
第一生命保険株式会社	1,660	1.38
日本生命保険相互会社	1,597	1.32

(注) 1. 持株数、持株比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は自己株式13,024,826株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。
 3. 持株比率は、自己株式(13,024,826株)を控除して計算しております。



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号 ※この株主通信に関するお問合せは下記までお願いいたします。

広報・IR課 03-3822-5036

株式メモ

事業年度: 11月1日から翌年10月31日まで
 定時株主総会: 毎年1月中
 株主名簿管理人: 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座管理機関: 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同連絡先(郵送先): 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 基準日: 定時株主総会については10月31日、その他必要がある時は、あらかじめ公告する一定の日
 公告の方法: 電子公告により行う公告掲載URL <https://www.kumiai-chem.co.jp/>
 (但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた際には、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口およびお問合せ先

- まだ受け取ってられない配当金の受領に関するお手続きおよびそのご照会
- 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
- 株主さま宛郵便物の発送と返戻に関するご照会
- 特別口座に関する各お手続きおよびそのご照会

お手続き窓口 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口

お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 各種お問合せ 0120-232-711

インターネットによるダウンロード <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き
 又は、お問合せをお願いします。



IR情報を当社ホームページでご覧になれます。
<https://www.kumiai-chem.co.jp/>
 クミアイ化学工業



こちらのPDFデータは制作した印刷物に掲載したものです。

Letter

第74期 中間株主通信 2021年11月1日 → 2022年4月30日 vol.09

Top Message

～成長戦略～ 気候変動対応とサステナビリティへの貢献

Business Topics

中期経営計画の進捗

Focus On クミカ

第3回 生物科学研究所を知る

Create the Future
 ～新たな可能性へのチャレンジ～



証券コード 4996

クミアイ化学工業株式会社

Top Message

トップメッセージ

気候変動への対応を進めるとともに、サステナビリティへの貢献をビジネスチャンスと捉え、成長戦略を継続していきます。



代表取締役 社長
高木 誠

第74期中間期の振り返り

中間期は前年比で増収増益を達成しました。農業及び農業関連事業では、海外農業市場の良好な事業環境を背景に畑作用除草剤アクシーブの販売が好調に推移しました。国内農業市場では、水稲用除草剤エフィードと水稲用殺菌剤ディザルタが計画通りに成長しました。化成品事業では、塩素化事業がコロナ禍の影響から回復基調となったことに加え、精密化学品事業の半導体向けの樹脂原料であるビスマレイミド類が好調に推移しています。原材料費の高騰など事業リスクはあるものの、2年目を迎えた中期経営計画の達成に向けて順調に推移しています。

現中期経営計画の進捗

最も力を入れている「研究領域、事業領域の拡大」について、農業及び農業関連事業では新規殺ダニ剤や新規微生物農薬の登録申請を予定しています。また微生物を活用したバイオスティミュラントや農地から発生するメタンをコントロールする技術といったサステナビリティに貢献する資材の研究開発も進めています。化成品事業では、コア事業の塩素化事業と精密化学品事業において、独自技術を活用した新規品目の開発や事業の川下化を目指しています。現在、今後の研究開発の核となる新化学研究所の建設を進めており、更なるイノベーションの創出につなげていきます。

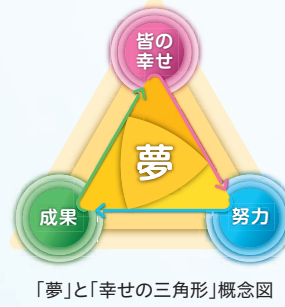
プライム市場へ移行後のサステナビリティ経営の推進

2022年4月4日にプライム市場へ移行し、ESGを重視した企業活動がますます重要になっています。2021年11月にサステナビリティ基本方針を策定し、サステナビリティ推進委員会を設置しました。2022年5月にはサステナビリティ推進室をサステナビリティ推進部へと組織強化し、具体的な取り組みを加速しています。気候変動対応に関するTCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) 提言に沿った情報開示やCDP (Carbon Disclosure Project) への対応を進めるとともに、ガバナンスの更なる強化にも取り組んでいきます。

主要事業での具体的な取り組みとして、昨年政府が策定した「みどりの食料システム戦略」への対応を進めています。化学農業は高性能・高機能化により生産性向上や環境負荷低減、生産者の省力化に貢献しています。既存技術の更なるイノベーションや新技術の開発を進め、世界の食料生産に貢献していきます。サステナビリティへ貢献することは、研究開発型企業の当社にとってビジネスチャンスと捉えており、自信を持って成長戦略を継続していきます。

株主(ステークホルダー)へのメッセージ

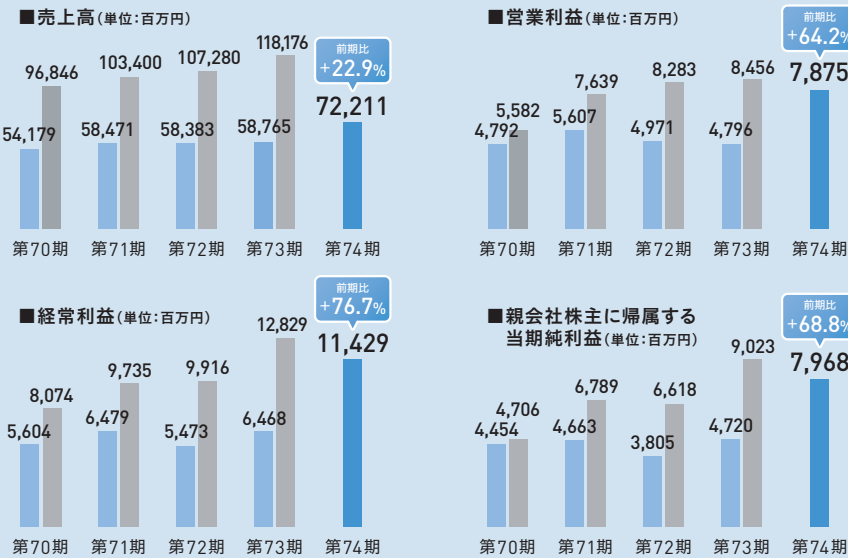
新たな方針の一つとして「夢の実現へ、全てのステークホルダーの幸せを追求」を掲げています。まず従業員が各自の夢に向かって努力し、成果を挙げることで達成感、充実感を味わい幸せになる『『夢』』『『幸せの三角形』』の流れを創っていきます。その成果が価値の創出、当社の成長となり、「ステークホルダーの皆さまの幸せ」につながります。当社は、この流れを「地球の幸せ」へと拡大させることが、真のサステナビリティ経営であると考えています。引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。



当期経営成績

当上半期は、国内・海外とも農業販売が好調に推移したことに加え、化成品事業の塩素化事業がコロナ禍から回復。売上高722億円、営業利益79億円という増収増益の結果となりました。

■ 第2四半期
■ 通期



Focus On

クミカ 第3回 生物科学研究所を知る

研究開発

製造

販売

製品としてお客さまへ



研究開発全体については第73期通期株主通信に掲載しています。



生物科学研究所とは

—安全で高性能な農薬のために—

当社の研究開発は化学研究所と生物科学研究所の2つの研究所が協力して行っています。いずれも静岡県を本拠地としていますが、生物科学研究所は、静岡県の他、宮城県に東北防除技術研究室、北海道に札幌試験圃場があります。また、米国や欧州にも試験圃場を有しており、これらの各研究拠点が連携することで、グローバルのニーズに応える研究開発体制を構築しています。

生物科学研究所は、農業研究センターと生命・環境研究センターで構成されており、約100名の

従業員が在籍しています。農業研究センターは、雑草や病害虫に対する薬剤の性能評価を中心に研究を行っています。生命・環境研究センターは、人畜や環境への安全性評価をするだけでなく、バイオテクノロジーなどの薬理的手法を駆使して、農薬の作用メカニズムの検討も行います。

より高性能で安全性が高い新規農薬を開発するため、化学研究所で合成した化合物を様々な角度から評価する生物科学研究所の役割はとても重要です。



生物科学研究所所長
エグゼクティブフェロー
清水 力

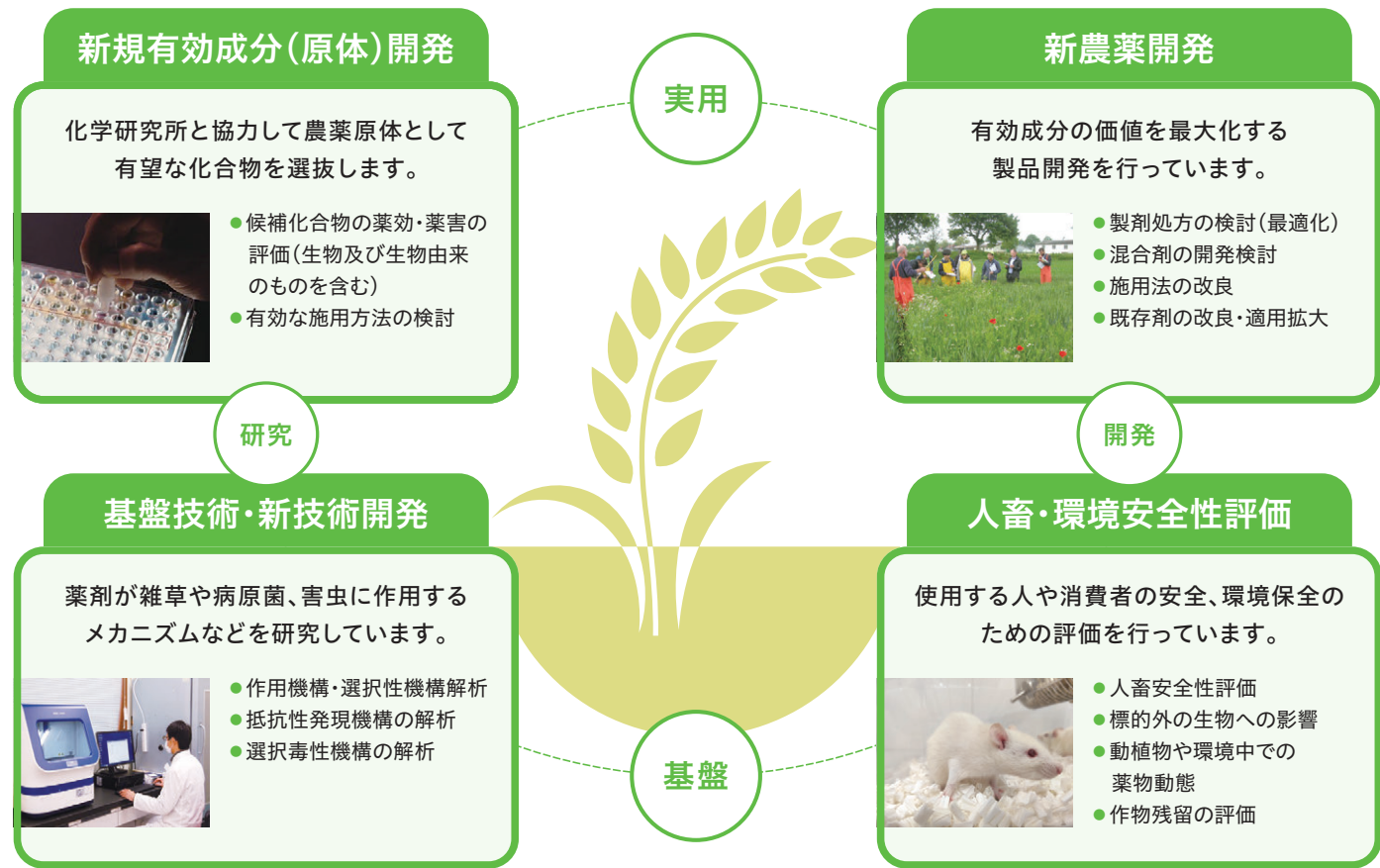
生物科学研究所の役割

創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことをテーマに、安全・安心な農作物の安定供給のための新農薬の創製研究に取り組んでいます。化合物の探索から新製品開発までの一貫した研究開発体制の中で、生物科学研究所は、創業研究センターで合成した新規化合物の性能評価試験、有望化合物の実用化研究、作用性研究を行うとともに、化合物の安全性、代謝、残留研究等を実施し、評価結果を化学研究所へフィードバックして実用化研究につなげています。新規化合物から農薬として製品化されるのは、わずか1/160,000の確率といわれていますが、当社ではこうした研究所の連携により、これまでに20個の農業原体をはるかに高い確率で開発・上市しています。



生物科学研究所の業務

生物科学研究所の業務は、大きく4つに分けられます。



農薬Q&A

Q: 人や自然に優しい農薬をつくるために生物科学研究所ではどんなことをしていますか?

人体や環境への安全性を 厳しい基準で評価

国によって基準は異なりますが、例えば日本で農薬を販売するためには、ヒトや動物への安全性、環境への影響など70項目以上の試験をクリアする必要があります。生物科学研究所では、ヒトや動物への影響はもちろんですが、標的外の生物への影響や環境中での代謝・分解経路などについても詳細に検討し、将来にわたって安全性の高い商品の開発を目指しています。



安全性が高く環境負荷の少ない農薬としての 微生物農薬の開発

当社では自然界に広く存在する有用な微生物を活用した生物農薬を開発、販売しています。加えて、これまでに蓄積したノウハウを生かして、微生物等を活用したバイオスティミュラントや、農地からのメタン発生をコントロールすることで地球温暖化を抑制する資材の検討など、新たな技術の創出にも取り組んでいます。

